

為替相場に関する会頭コメント (2001年3月9日)

円相場が一時、1ドル120円台まで下落したことは、現在の経済情勢から見て当然であり、むしろ妥当な水準に戻したのではないかと思う。

これまで、円高で多くの業界が苦境にあったと思うが、漸く適正な水準に近づいたと歓迎している。

今回は、デフレ阻止策として円安誘導に注目が集まり、市場がいち早く反応した結果であるが、市場はこれが適正な水準であることを認識するべきだと思う。

急激な為替変動は、関係業界に多大な影響を与えるので、今後緩やかな円安誘導が望ましい。

いずれにしても、わが国経済を回復軌道に乗せるためには、政府は思い切った税制改革や構造改革に取り組み、そして日本経済の先行きについて国民はもとより海外にも明確なメッセージを示すべきである。

京都商工会議所
会頭 村田純一